



出典：国土地理院撮影の空中写真（令和6年撮影）

松江市美保関伝統的建造物群保存地区

保存地区は島根半島の最東端に位置し、中世以降海上交通の拠点として山陰海域の中心的な港となり、美保神社を中心とした集落が形成されました。近世においては、北前船の風待ちの寄港地として栄え、現在に続く町並みが形成されたとみられます。

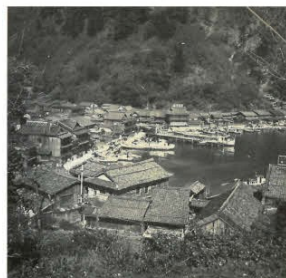
漁業を中心とした集落であると同時に、船乗りが滞在した港町として、また、門前町としての性格も持ち合わせ、江戸時代から昭和30年代まで建築された特徴ある伝統的建造物も多く残っています。明治期に作成された地割図が残されており、江戸時代末期に形成された地割が現在まで非常に良く保存されていることが分かります。この歴史的な町並みに加え、明治以降も続く祭礼行事などの人々の活動も融合し、港町・門前町としての歴史的風致がよく残っています。



「美保関絵図」（個人蔵・松江歴史館寄託）

歴史年表

733年 鎌倉時代 室町時代	『出雲国風土記』に「美保郷」が登場する この頃には、港湾的機能が整い、関所的な役割があった 海関が置かれ海運の拠点として栄えはじめる
17世紀末（江戸時代）	北前船の風待ちの寄港地として、藩の登米を積んだ廻船の寄港地として栄えた
1696年（元禄9）	38軒もの廻船問屋が軒を連ねた
1800年（寛政12）	美保関大火 民家76棟が消失
1813年（文化10）	現在の美保神社本殿の造営
1850年（嘉永3）	42軒もの廻船問屋が軒を連ねた
1876年（明治9）	郵便汽船三菱会社が美保関を寄港地として定める
1885年（明治18）	美保神社が国幣中社に昇格し、参拝客が増加する
1891年（明治24）	小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が初めて美保関を訪れる その後、明治25年、明治29年に訪れる
1895年（明治28）	隠岐汽船の定期寄港が開始
1899年（明治32）	1945年（昭和20）まで継続 美保関村海岸道路開通
1907年（明治40）	合同汽船の定期航路が開始
1919年（大正8）	美保神社の大規模な改修事業
1927年（昭和2）	1928年（昭和3）まで続く 美保関自動車株式会社による乗合自動車の運行が始まる
1928年（昭和3）	美保神社遷宮祭 合同汽船が松江・美保関間で大型船の定期航路を開始 境水道大橋が開通
1972年（昭和47）	美保関港と地藏埼（美保関灯台）までの自動車道開通
1973年（昭和48）	合同汽船が航路廃止
1980年（昭和55）	昭和50年代は自動車道路の発達により観光地として栄える



昭和前期頃の様子 出典：松江歴史館



松江市美保関伝統的建造物群保存地区

保存地区決定	令和7年12月23日
保存活用計画告示	令和7年12月23日
保存地区面積	約5.9ヘクタール
保存地区範囲	松江市美保関町美保関の一部

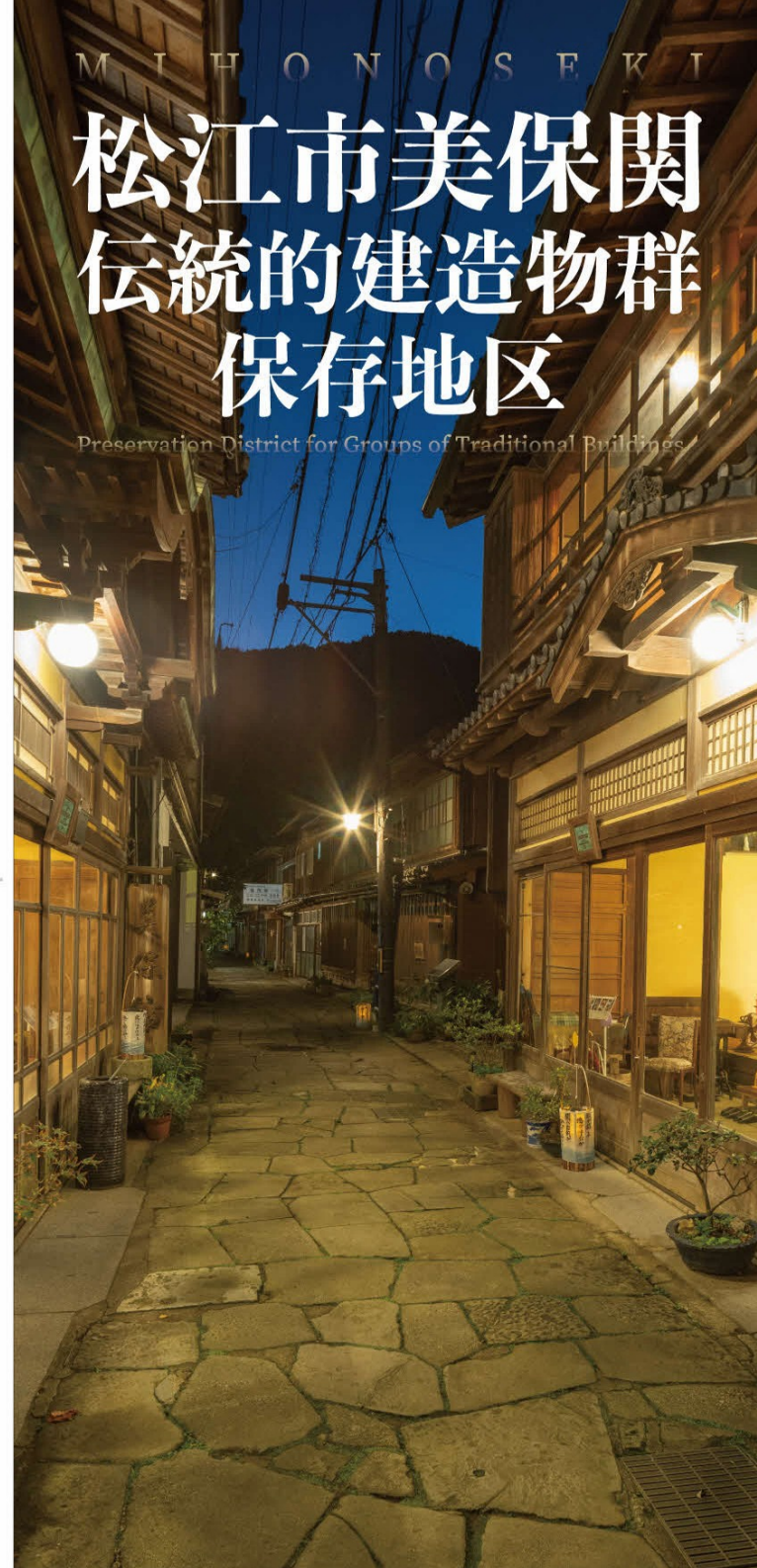
令和8年3月発行

松江市文化スポーツ部文化財課 〒690-8540 島根県松江市末次町86番地 ☎0852-55-5956

散策される際は、保存地区で生活されている住民のプライバシーにご配慮いただきますようお願いいたします。

M I Y A K O K A I T O 松江市美保関 伝統的建造物群 保存地区

Preservation District for Groups of Traditional Buildings



とまりこうじ なかうこうじ つきなこうじ みほこうじ
保存地区は、西から泊小路、中浦小路、月名小路、美保小路の谷筋を中心とする町から成っています。美保神社の参道脇から、本通りと呼ばれる中心街路が通り、これと直交する谷筋に面して町家や旅館建築が建ち、泊小路の谷奥や中浦小路の山側に寺院が位置しています。

敷地は通りに沿って細長い短冊形を呈し、斜面地や湾沿の敷地の段差に石垣を築いています。町家の主屋は、切妻造平入でいぶし瓦の棧瓦葺を基本とし2階建てです。(※1)1階の平面は通り土間に沿って2から4室を並べる1列型が多く(※2)、1室目には神棚を設けて恵美須神を祀るのが特徴で、美保神社の祭礼の影響を示しています。正面外観は、下屋や腕木庇を付し、軒や下屋の出桁は装飾的な意匠を施した腕木で支えています。(※3)

旅館建築は本通りに面して建ち、間口を4間以上とする大規模なもので、2階建て、切妻造平入棧瓦葺を基本とし、座敷は数寄屋風意匠となっています。(※4)



(※1) 切妻造・平入・棧瓦葺の屋根



(※2) 1階通り土間と居室部



(※3) 装飾のある腕木



(※4) 大型の旅館建築



1 燈籠(弁天波止場常夜燈) 歴史的風致形成建造物



天保13年(1842)に建てられ、その後、明治3年(1870)、平成23年(2011)に再建された。海運で栄えた美保関のシンボルである。

2 石碑(道標) 歴史的風致形成建造物



道路整備が行われて半分埋没しているが、「右島井前」の文字があり、本通りから美保神社鳥居までの道しるべである。

3 美保神社 本殿：国重要文化財 拝殿：国登録有形文化財



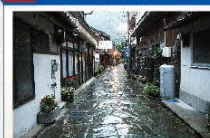
全国各地にある事代主神を祀る「えびす社」の総本宮。本殿は、文化10年(1813)に再建され、大社造の二殿の間を「装束の間」でつないだ特殊な形式で、美保造または比翼大社造と呼ばれる。拝殿は、船庫を模した独特な造りで、設計監修に伊東忠太が関わっている。

4 美保関おかげの井戸 国登録有形文化財



干ばつ時に官司が雨乞いをしたところ、お告げがあり、その場を掘削すると水が湧いたと伝えられ、以後、地域の共同井戸として大切に利用され、信仰の対象ともなっている。

5 石敷舗装(青石畳通り) 歴史的風致形成建造物



江戸時代末期ごろに作られたと伝わる。雨に濡れると鮮やかな青緑色に発色することから「青石畳通り」と呼ばれている。

6 三代家住宅主屋 国登録有形文化財 市登録歴史的建造物



昭和5年、3軒を1棟に改修された。三代家は蠟燭製造販売や廻船問屋、両替商などを営むことで栄えた。小屋裏に頭人部屋が残っている。

7 旅館美保館本館 国登録有形文化財 市登録歴史的建造物



所有者の定秀家は明治38年から旅館業を営んでいる。本通り側と海岸側の建物の間には光が差し込む大きな吹抜けがある。全体的に繊細な数寄屋風で各所に趣向が凝らされている。向かいの旧本館も国登録有形文化財。

8 中鞘(ナカサヤ) 歴史的風致形成建造物



本通りと海側の道路を結ぶ通路がある。地元ではナカサヤ、トンネルと呼ぶ。

9 定秀家住宅(北国屋) 市登録歴史的建造物



定秀家は約800年続く、美保関の歴史と共に歩んできた家である。家屋の一部は火事で焼失した。山手にある石室では北前船で運ばれてきた物資を貯蔵していたと伝わっている。

10 美保館別邸 月那離宮(旧定秀家) 市登録歴史的建造物



かつては泊小路の現美保館付近に建てられていた旅館建築を昭和初期に移築したものといわれる。むくり屋根の庇や波紋の彫刻を施した持ち送りなど、和風の意匠が随所に施されている。

11 旧濱中屋船宿(福岡館別館) 国登録有形文化財 市登録歴史的建造物



かつて北前船が入津した際には見張り所として、また水夫達をもてなす宴会場としても使用されていたと伝わる。

12 福岡館離れ(旧天下舎) 市登録歴史的建造物



本通りに面して建つ東棟と、海岸側に建つ西棟の二棟が中庭を介し一体となっている。海側の半地階の部分には小舟が入ることのできる舟置き場跡も残る。

13 石垣(伝統的な石積・かつての海岸線) 歴史的風致形成建造物



海岸線の道路ができるまでは建物の際まで海が迫っていた。かつての海岸線を示す石垣が残っている。切石積や乱石積といった伝統的な石垣も残っている。

14 小泉八雲記念公園 歴史的風致形成建造物



小泉八雲が美保関町を訪れた際に滞在した船宿「鳥屋」の跡地。『知られぬ日本の面影』に、当時の暮らし、風習、夜の港の賑わいなど、感じたまま記している。

15 係留柱 歴史的風致形成建造物



船に係留するための石造の係留柱。天保8年(1837)に設置された38本のうちの1本。海岸線に県道が敷設されるまで、建物の際まで海が迫っていたことを示す遺構である。

16 美保館別邸 大正館 柵欄(旧木谷家) 市登録歴史的建造物



当初の所有者であった木谷家はかつて網元であったとされる。美保関では稀有な間口が広い建物である。海側には石の擁壁と階段が残っており、かつての海岸線を示している。